

研究者紹介 **私の研究**植物
研究部

陸上植物研究グループ

かどた ゆういち

門田 裕一 研究主幹

『日本のアザミ』

— 野外調査の醍醐味 —

私はキク科アザミ属を研究対象の一つとしています。この研究では野外調査を重点をおき、植物の形態的変異や生育地などを観察し、その観察結果をもとにして、標本を比較研究するという手法を用いています。

野外調査の方針としては、タイプ標本の産地（基準産地）を実際に訪問し、タイプ標本がどのような性格のものかを把握しようと努めました。たまたま採集された標本がタイプ標本に選ばれることは良くあることです。そのため、タイプ標本が種を代表するものかどうかは実際に野外で確かめる必要があります。

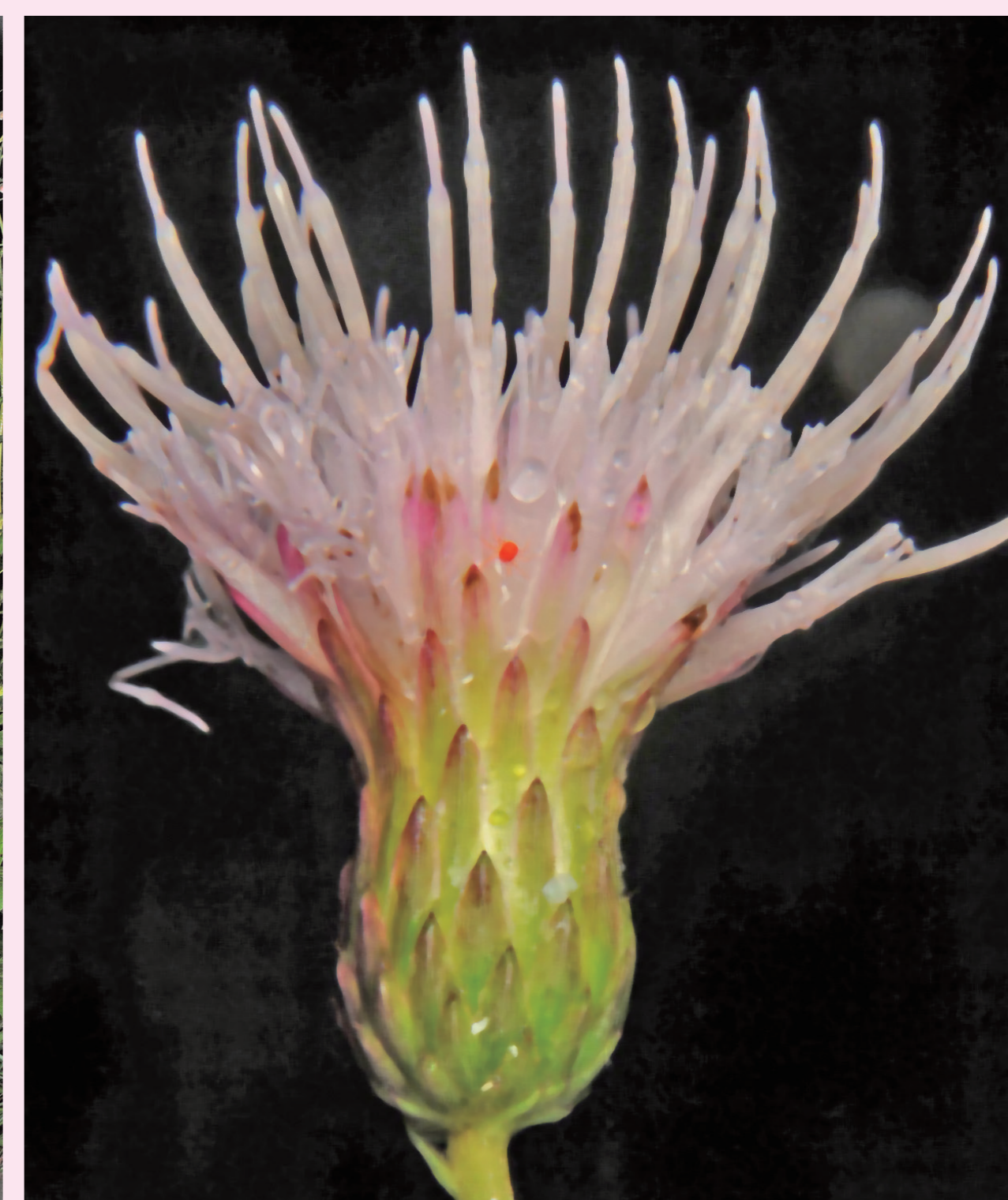
調査の結果、狭分布種から成るカガノアザミ群に興味をもちました。この群は染色体数 $2n=2x=34$ の二倍体種群で、遺存的な性格もっています。そして、この群は本州、とりわけ、東北地方から近畿地方にかけての地域で著しい地理的分化を遂げていることが分かってきました。谷ごとに種が置き換わっていく例すら珍しくありません。この分化の様子は甲虫のオサムシの場合と似たところがあるといえます。調査が進むに連れて、次々と新たな種が見つかってきましたが、まだまだ未知の種が潜んでいると思われる。

野外調査には長い時間を要するものが多いと思います。そうした調査を通じて生物相を明らかにしていくことは国立科学博物館の重要な使命の一つでしょう。



カガノアザミ（左：全体，右：頭花）

カガノアザミ群の代表的な種。北陸地方から近畿地方東部に分布します。基準産地に10年ほど通って、やっとこの種の問題を把握することができました。石川県白山市にて。



エチゴヒメアザミ（左：全体，右：頭花）

カガノアザミと混同されてきたアザミ。頭花（右）の総苞はほとんど粘りません。北陸地方東部から新潟県中越地方にかけて分布します。新潟県長岡市にて。

| 研究員に聞いてみました！

1) 専門は何ですか？

頭花植物の分類・地理学です。キク科とキンポウゲ科を主な対象として、「分類が難しい」として知られている植物群に取り組んでいます。

2) 研究者になろうと思ったきっかけは何ですか？

子供の頃から甲虫のオサムシやセンチコガネに興味があり、ダイナミックな地理的変異に魅せられ、将来は昆虫学者になりたいと思ったのが中学生の時でした。その後、紆余曲折があって研究対象を植物に替え、同じように地理的分化の著しいトリカブト属に取り組みました。

3) 最近の研究活動で、最も興味深かった出来事は何ですか？

アザミ属以外では、北海道でキンポウゲ科のキンバイソウ属2新種（未発表）を見つけたことです。6月下旬頃、低地の溪流に沿って大群落を作ります。よく目立つ花なので存在そのものは以前から知られていたと思います。日本にはこんな未知の植物がまだまだあるのだと実感しました。

4) 研究者になりたい方に一言アドバイスを！

自分で見つけたにせよ、他の人から与えられたにせよ、研究テーマをどこまでも追求して下さい。自然誌的な研究では、野外でも標本庫でも自分の眼で観察すること、これに尽きると思います。

